
2006年3月期 第1四半期
決算説明会

2005年7月28日

沖電気工業株式会社

1. 第1四半期決算の概況

- 1-1) 事業環境
- 1-2) 決算概要
- 1-3) P/Lの概要
- 1-4) 事業別セグメント情報
- 1-5) B/Sの概要
- 1-6) キャッシュフローの概要

2. 中間期業績予想

- 2-1) 予想P/L
- 2-2) 事業別セグメント予想
- 2-3) 収益力確保に向けた商品開発

本資料における予想、見通し、計画等は、現時点における事業環境に基づくものであり、今後の事業環境の変化により実際の業績が異なる可能性があります。

1. 新紙幣対応の終了によりATM関連投資は昨年度後半以降停滞、セキュリティ対応投資は徐々に立ち上がるものの本格化は来年度以降
2. 通信キャリアの光化投資、ブロードバンドIP関連投資は引き続き高水準であるが、キャリア間の加入者獲得競争が激化し、価格低下への圧力が強まる
3. 半導体市況は昨年後半から減速、PC関連をはじめとして回復が見られるが全体としては底這い状態
4. プリンタ市場はカラーNIP*が成長し続けるが、各社シェア獲得のために価格競争は激化
5. 為替の状況

| | 05年度 社内レート | 1Q 実勢レート | 2Q 想定レート |
|------|---------------|-------------|-------------|
| USD | 105.0 | 107.7 | 107.0 |
| Euro | 135.0 | 135.6 | 135.0 |

* NIP: ノンインパクトプリンタ

- 金融機関向け売上および半導体を中心に、売上高は前期比57億円の減少
- 売上高の減少に伴い営業利益は18億円の減益
- 株主資本比率、有利子負債比率はいずれも改善

(金額単位:億円)

| | 05/3期 | 06/3期 | 差異 |
|-----------|---------|--------------|--------|
| 売上高 | 1,420 | 1,363 | 57 |
| 営業利益 | 21 | 39 | 18 |
| 経常利益 | 31 | 45 | 14 |
| 当期純利益 | 26 | 40 | 14 |
| 1株当り当期純利益 | 4.28円 | 6.54円 | 2.26円 |
| 総資産 | 5,834 | 5,954 | 120 |
| 株主資本 | 1,105 | 1,180 | 75 |
| 1株当り株主資本 | 180.63円 | 192.90円 | 12.27円 |
| 有利子負債 | 2,834 | 2,790 | 44 |

■ 比較連結P/L

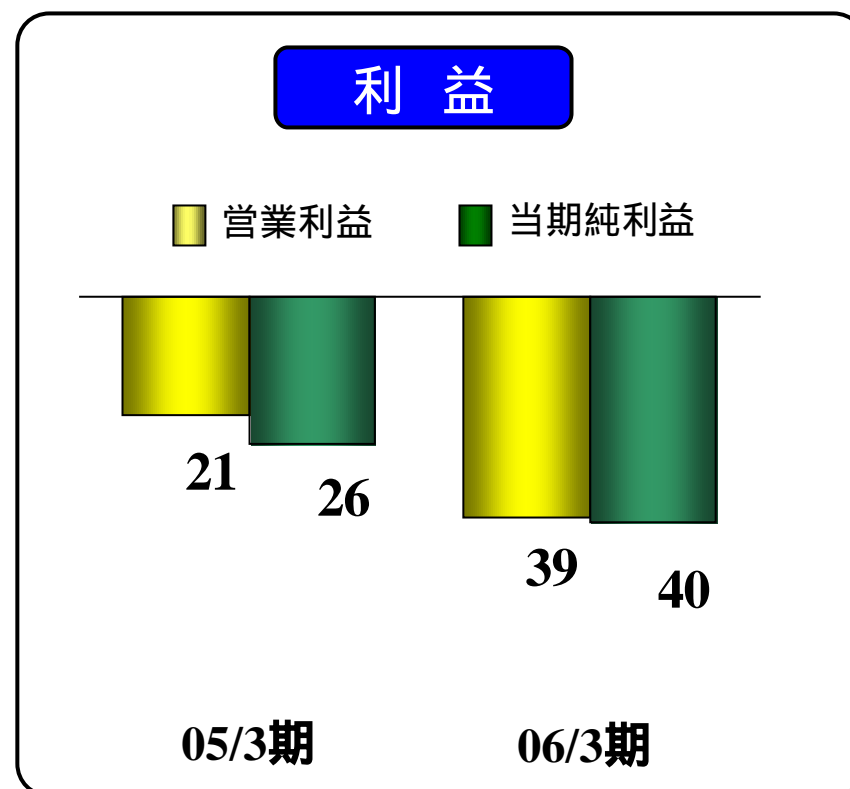
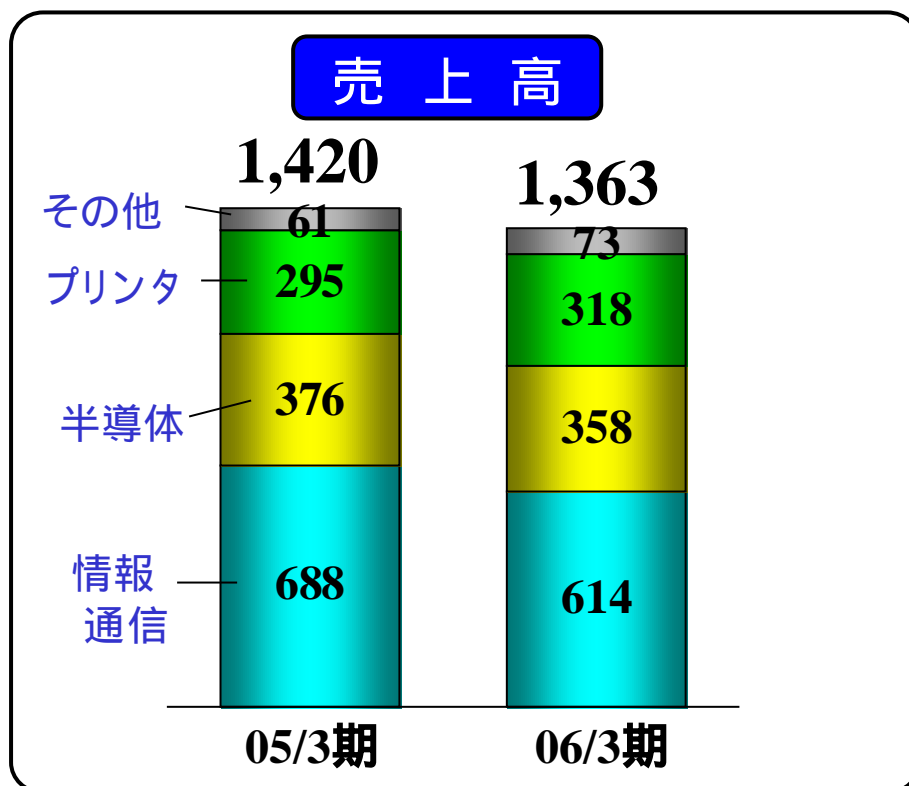
(金額単位:億円)

| | 05/3期 | 06/3期 | 差異(増減) |
|---------|---------|---------|----------|
| 売上高 | 1,420 | 1,363 | 57 |
| (売上原価率) | (75.4%) | (76.8%) | (1.4%悪化) |
| 売上原価 | 1,071 | 1,047 | 24 |
| 販管費 | 370 | 355 | 15 |
| 営業利益 | 21 | 39 | 18 |
| 営業外収支 | 10 | 6 | 4 |
| 経常利益 | 31 | 45 | 14 |
| 特別利益 | 1 | 1 | 0 |
| 特別損失 | 13 | 6 | 7 |
| 税引前利益 | 43 | 50 | 7 |
| 法人税等 | 17 | 10 | 7 |
| 当期純利益 | 26 | 40 | 14 |

- 売上高の減少に伴い、営業損益は前年同期比18億円悪化の39億円の損失
- 売上原価率は、価格下落影響が大きく、前年同期比1.4ポイント悪化
- 営業外収支は、受取配当金が4億円増加したことにより、前年同期比4億円改善
- 特別損益は固定資産処分損が5億円、特別退職金が2億円それぞれ減少したことにより、前年同期比7億円改善

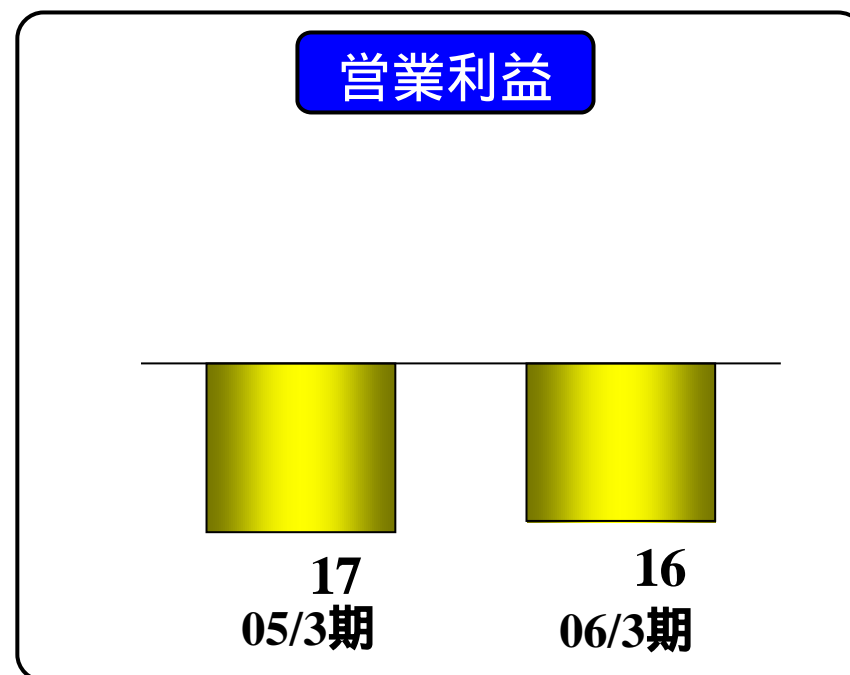
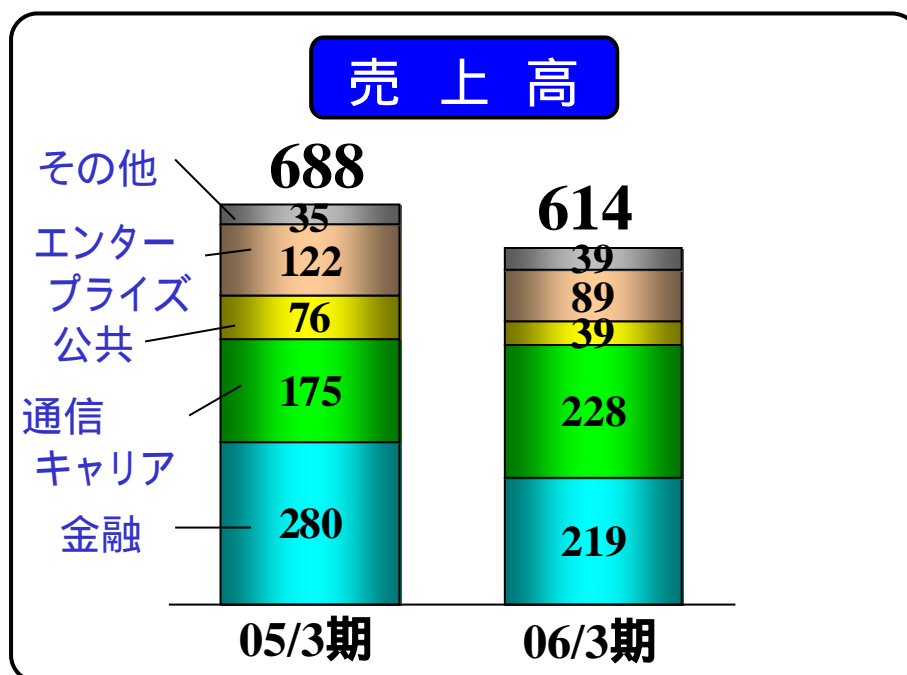
- プリンタが増収となる一方、情報通信・半導体は減収
- 売上減により営業利益、当期純利益とも減益

(金額単位: 億円)



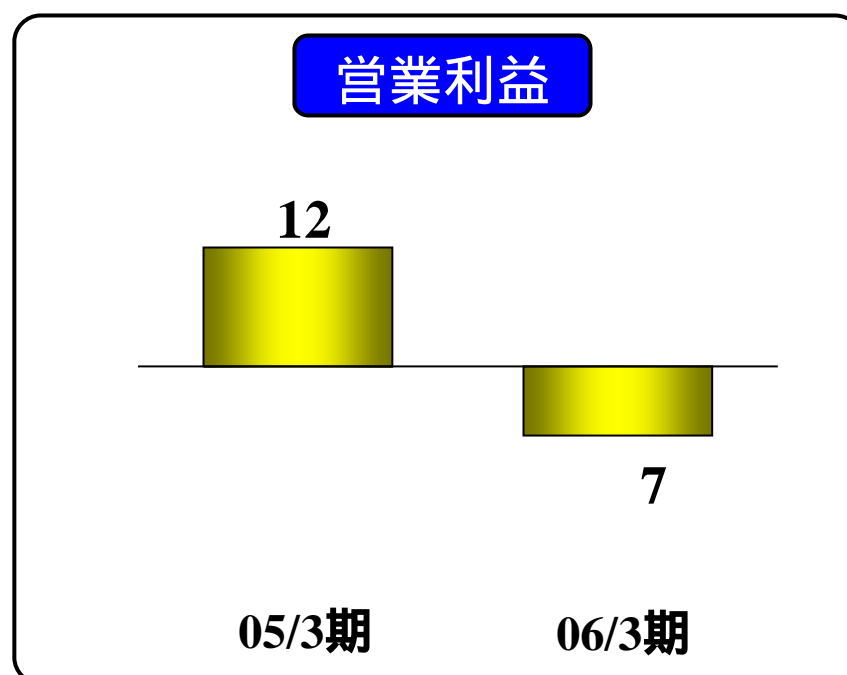
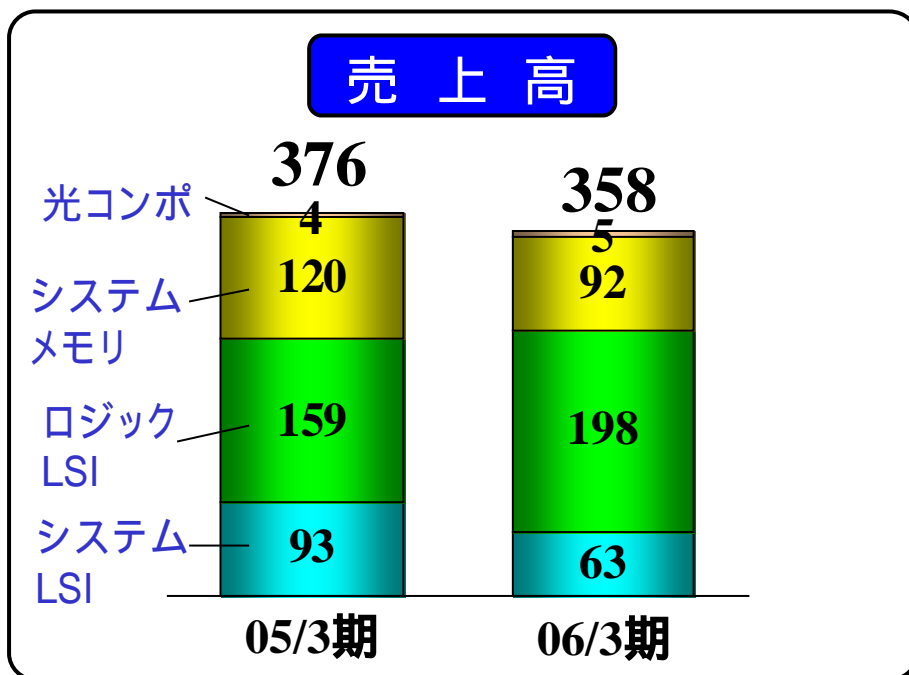
- 通信キャリア向け売上は、各通信キャリアによる堅調な光化およびブロードバンドIPへの投資により増加
- 金融機関のATM関連への投資や官公庁のIT投資などが抑制されたことから売上が減少し、全体では前年対比減収

(金額単位: 億円)



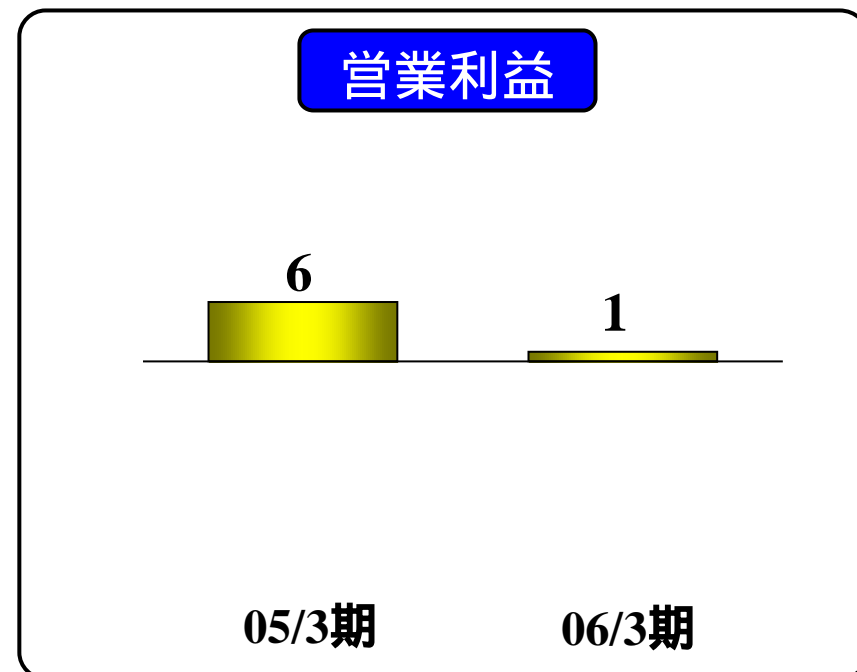
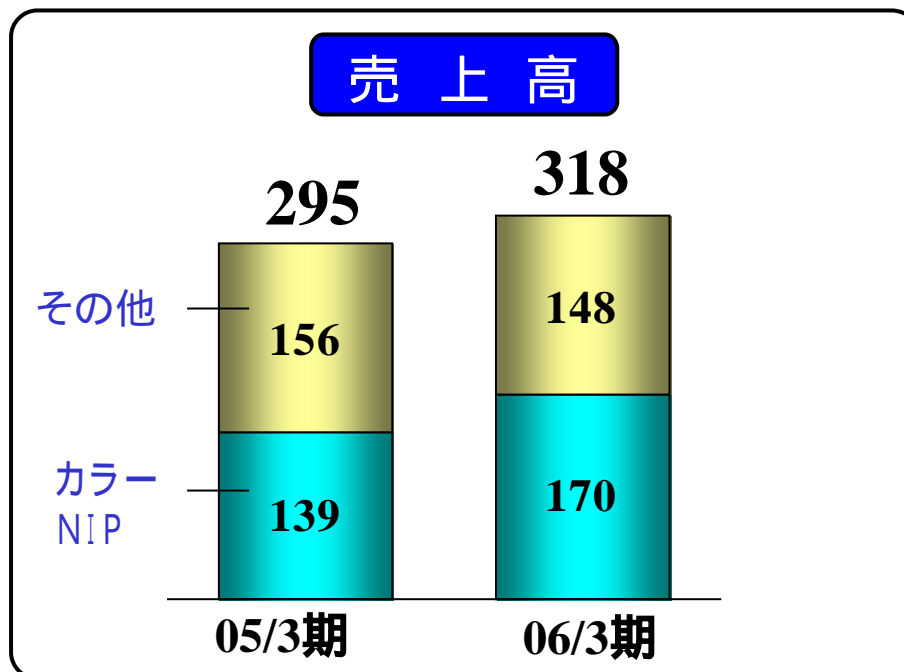
- 日本TI社のドライバ事業買収の効果もあり、液晶パネル用ドライバは増収
- PHS用ベースバンドLSIや音源などは、中国における携帯端末の在庫調整の影響があり売上は減少
- 価格下落などにより前年同期比19億円減益

(金額単位: 億円)



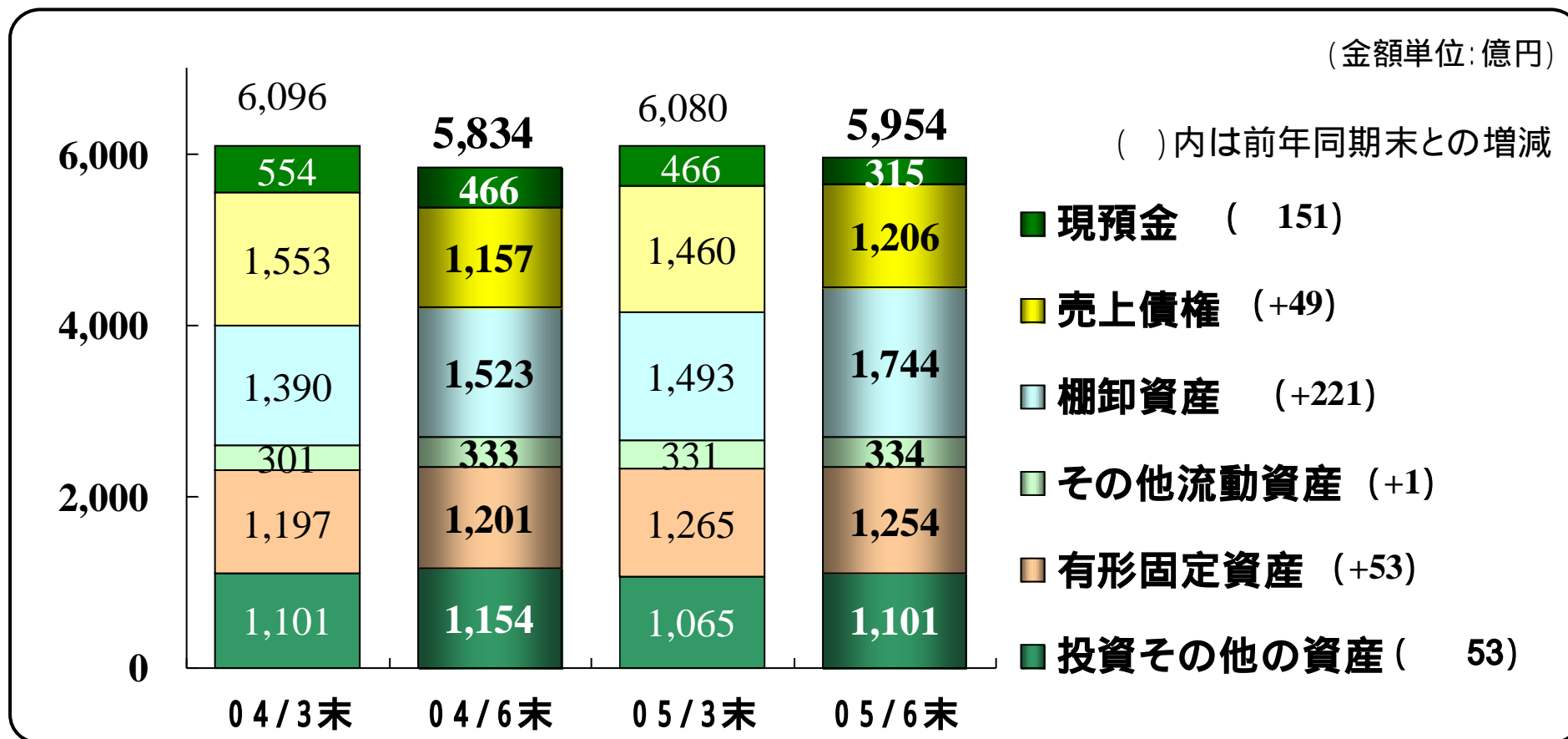
- カラーNIPは出荷数量の伸びが大きく、各社のシェア獲得のための厳しい価格競争下でも前年同期比で増収
- 価格下落や積極的販売投資により減益

(金額単位: 億円)



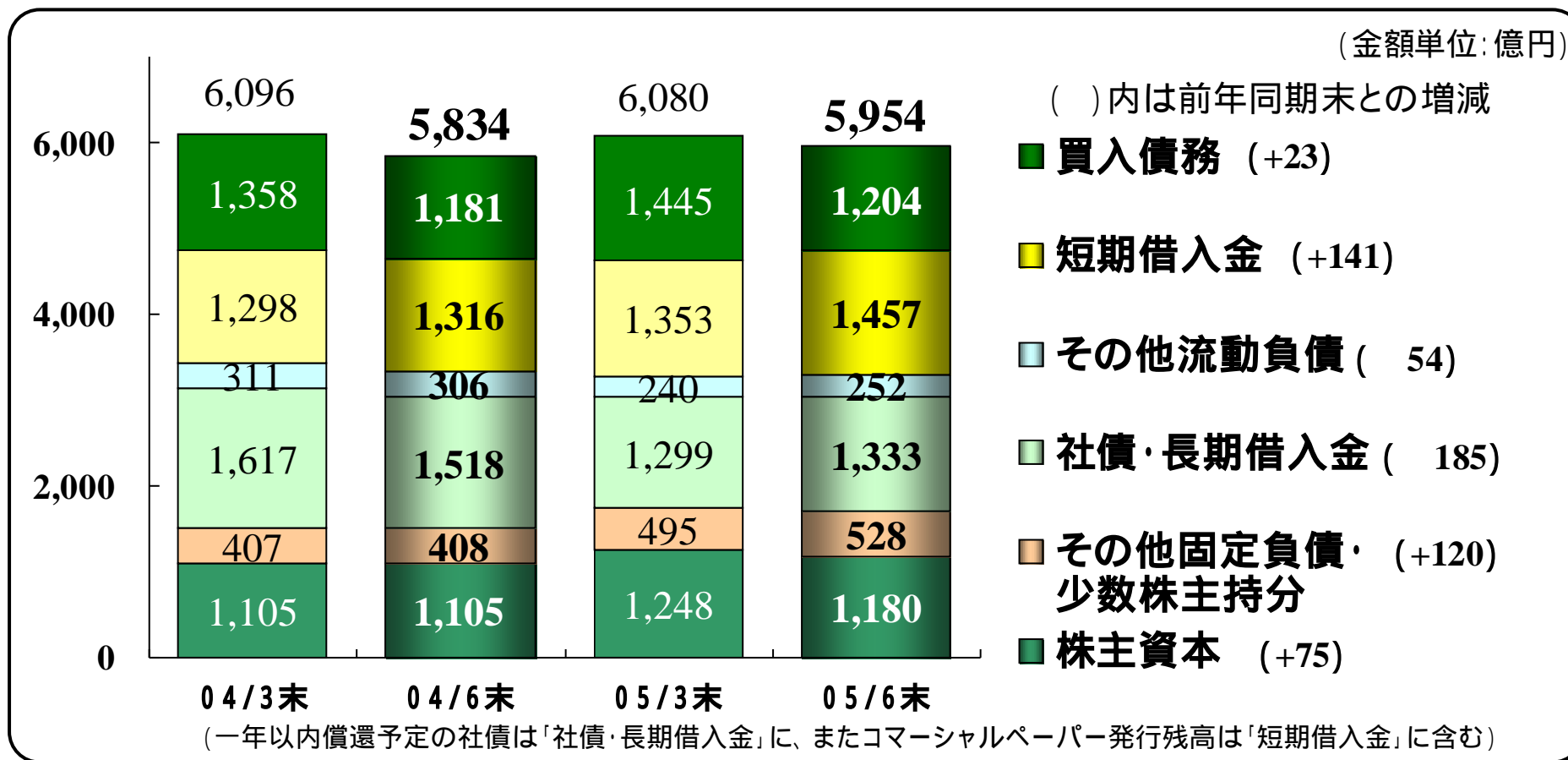
【貸借対照表 - 資産の部】

- 棚卸資産はプリンタの売上増に伴う増加、および円安により海外子会社の円換算評価額が増加したことから、前年同期比221億円増加



【貸借対照表 - 負債・資本の部】

- 有利子負債残高は2,790億円で、前年同期比44億円削減
- 有利子負債比率は46.9%で前年同期比1.7ポイント良化、株主資本比率は19.8%で同0.9ポイント良化



● 売上債権、棚卸等の運転資金増により、営業キャッシュフローは前年同期比
 291億円悪化

● これに伴い、フリー・キャッシュフローも同276億円悪化 (金額単位: 億円)

| | 05/3期 | 06/3期 | 増減 | 備考 |
|-------------------|-------|-------|-----|--|
| 営業キャッシュフロー | 104 | 187 | 291 | |
| 税金等調整前当期純利益 | 43 | 50 | 7 | < 運転資金増減影響内訳 > (05/3期) (06/3期) 売上債権 403 261 棚卸資産 132 250 仕入債務 99 137 計 172 126 |
| 減価償却費 | 73 | 79 | 6 | |
| 運転資金の増減 | 172 | 126 | 298 | |
| その他 | 98 | 90 | 8 | |
| 投資キャッシュフロー | 90 | 75 | 15 | |
| 設備投資支払額 | 67 | 62 | 5 | |
| その他投資活動 | 23 | 13 | 10 | |
| フリー・キャッシュフロー(+) | 14 | 262 | 276 | |
| 財務キャッシュフロー | 84 | 119 | 203 | |
| 社債償還 | 0 | 100 | 100 | |
| 長短借入金の増減他 | 84 | 219 | 303 | |
| キャッシュフロー計(+ +) | 70 | 143 | 73 | |
| 現金同等物等の期末残高 | 514 | 363 | 151 | |

- 前回(4/27)予想に対し、売上高は据置き、営業利益は40億円の減益見込
- 前年同期に対しては、売上高は微増、価格下落等の影響で営業利益は40億円の損失見込、当期純利益は前年同期比21億円減の50億円の損失見込

(金額単位: 億円)

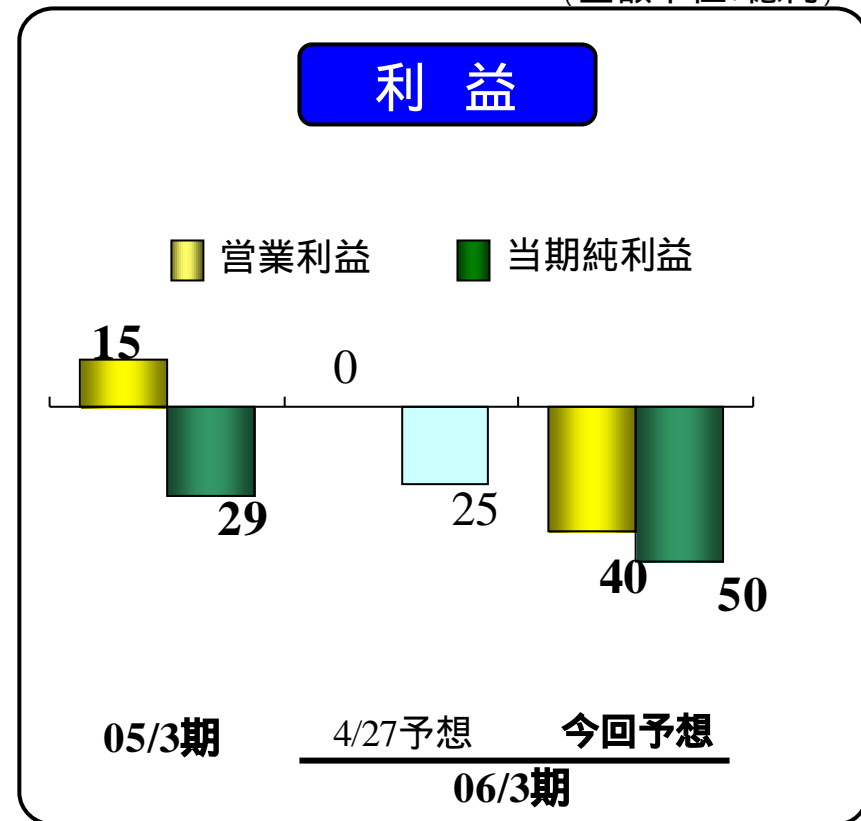
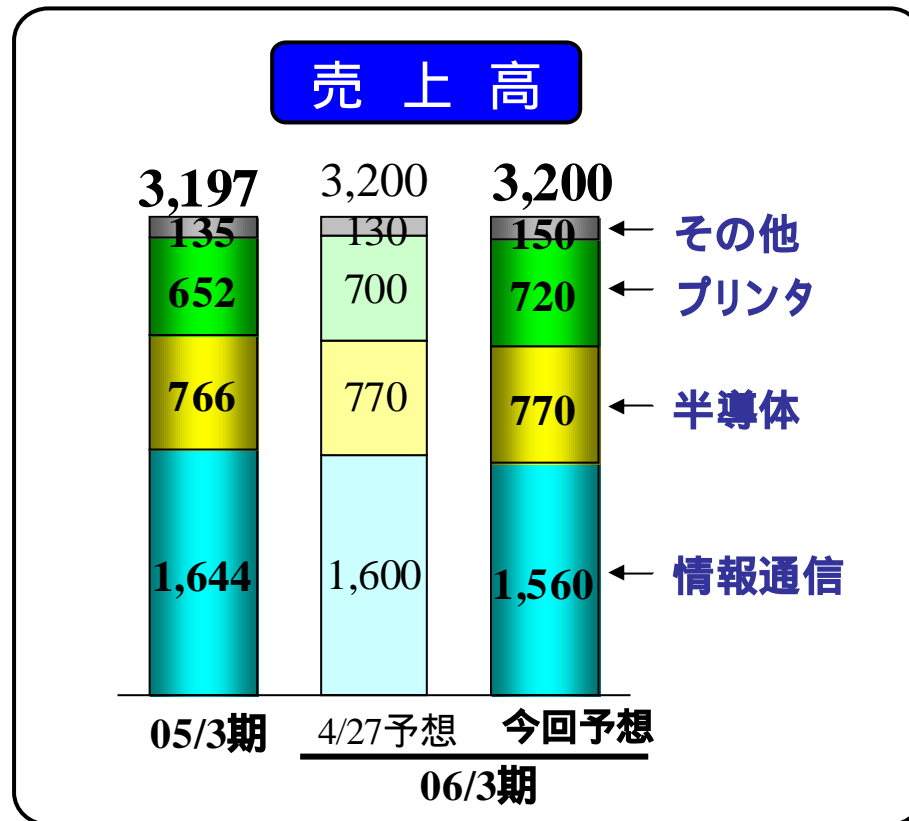
| | 05/3期 実績 | 06/3期 今回予想 | 差異 (増減) | 06/3期 前回予想(4/27) |
|-------|-------------|---------------|------------|---------------------|
| 売上高 | 3,197 | 3,200 | 3 | 3,200 |
| 営業利益 | 15 | 40 | 55 | 0 |
| 営業外収支 | 21 | 30 | 9 | 35 |
| 経常利益 | 6 | 70 | 64 | 35 |
| 特別損益 | 41 | 5 | 36 | 10 |
| 税引前利益 | 47 | 75 | 28 | 45 |
| 法人税等 | 18 | 25 | 7 | 20 |
| 当期純利益 | 29 | 50 | 21 | 25 |

OKI 中間期 事業別セグメント予想【連結合計】

ネットワークソリューションの強み

- 前回(4/27)予想に対し売上高は3,200億円で変わらず。営業利益は金融機関向けの売上減や半導体の価格下落が影響し40億円の減益の見込
- 前年同期比では売上高は情報通信で84億円の減収だが、プリンタが68億円の増収となり全体ではほぼ横這い。営業利益は特に半導体の価格下落等による減益幅が大きく、55億円の減益の見込

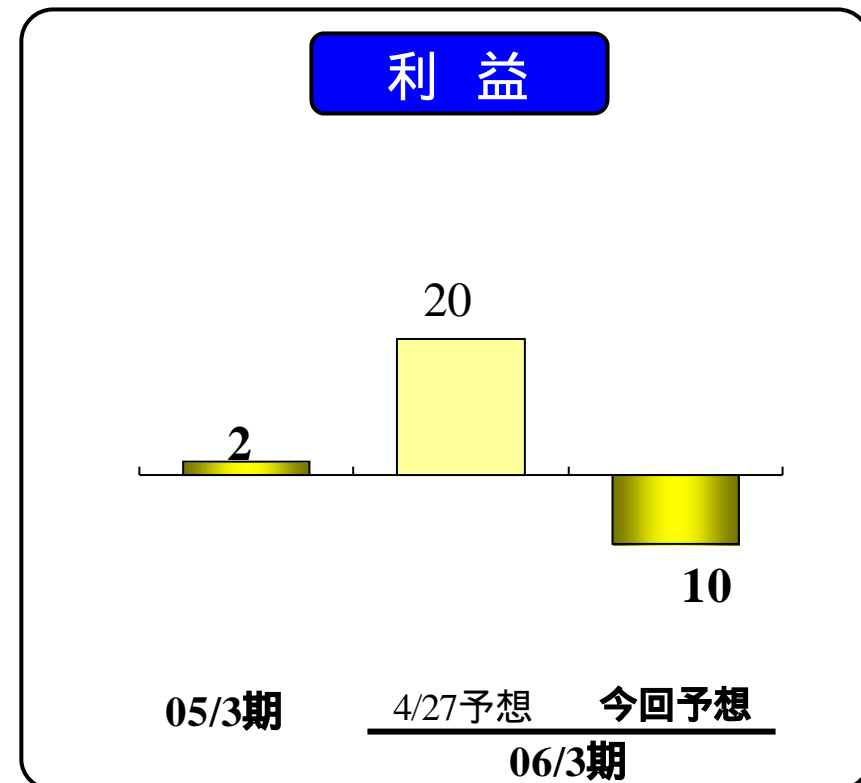
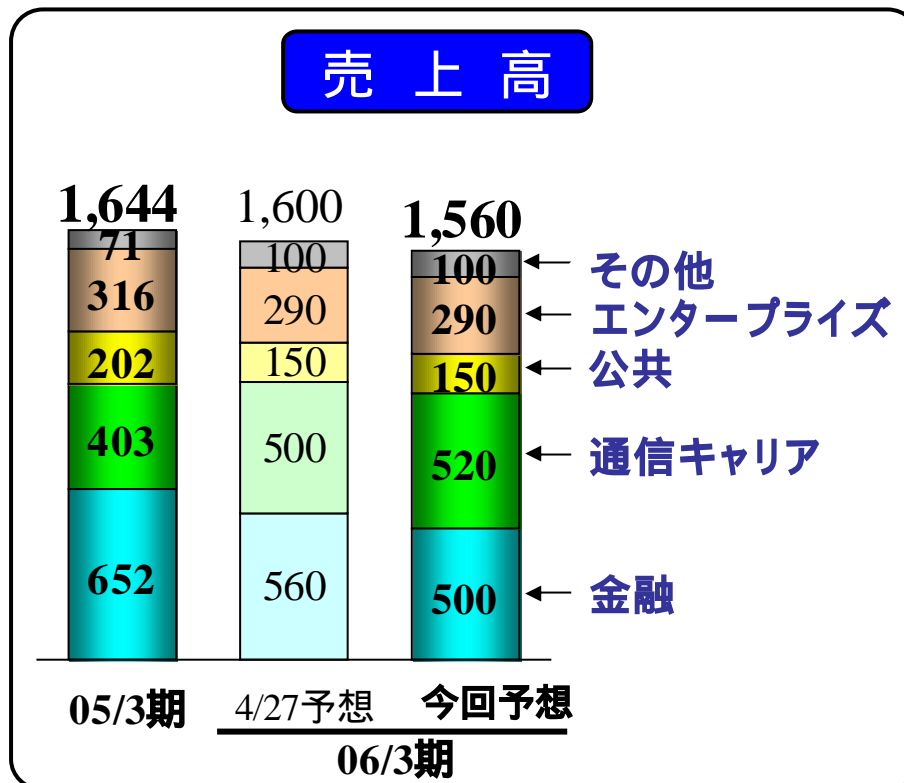
(金額単位: 億円)



OKI 中間期 事業別セグメント予想【情報通信】

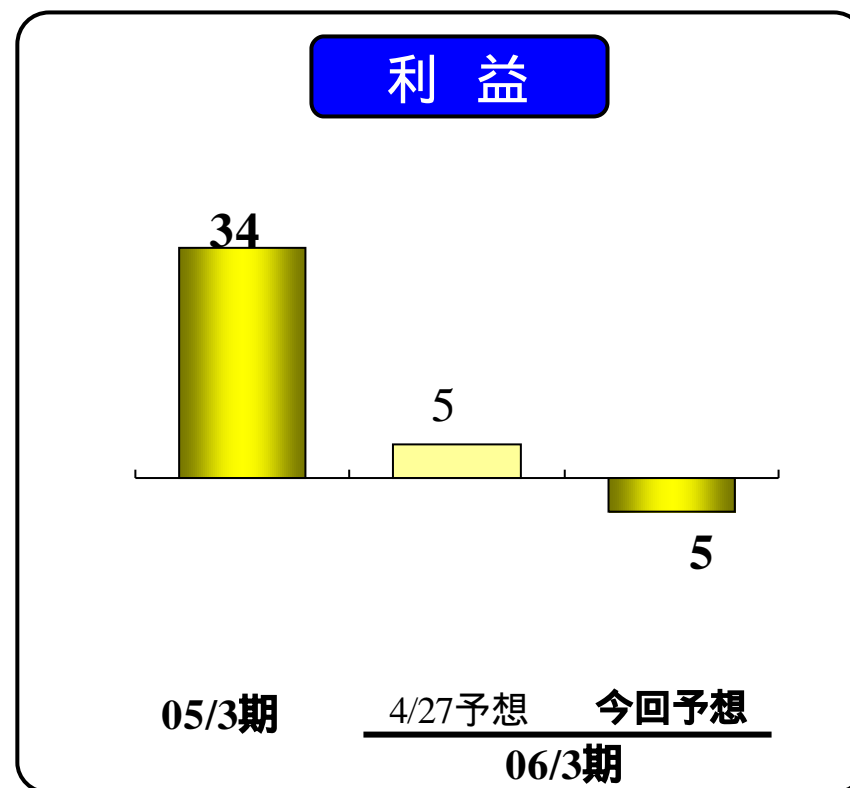
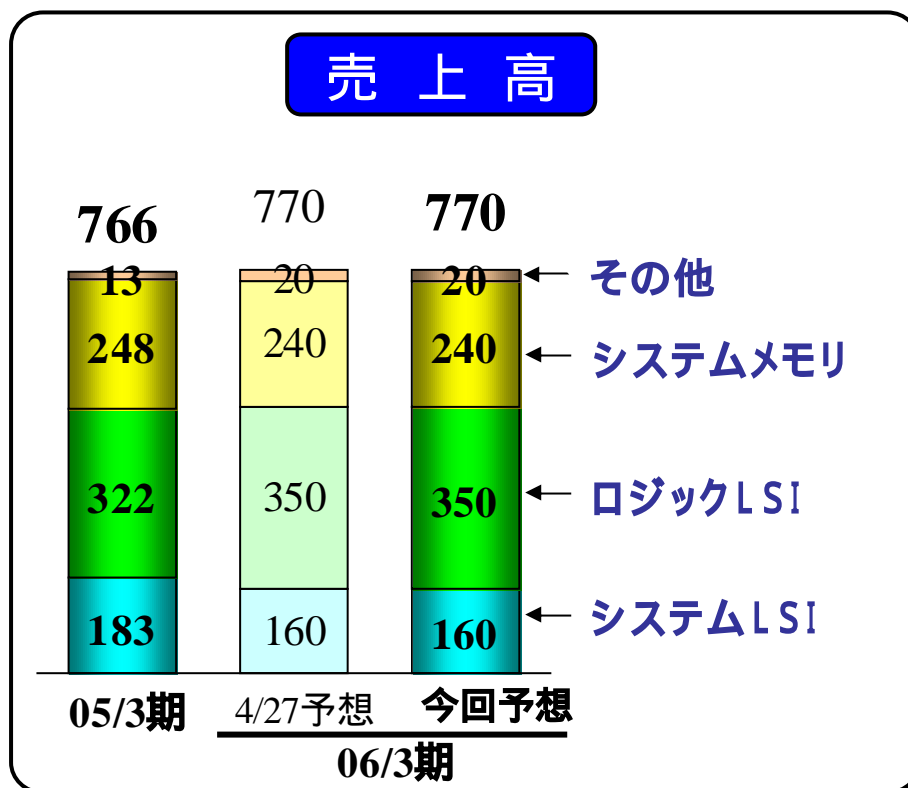
- 前回(4/27)予想に対し、通信キャリア向け売上は20億円の増収だが、金融機関向け売上が60億円の減収となることから、全体では減収減益の見込
- 前年同期に対し、通信キャリア向け売上は増収だが、金融、公共向けの減収幅が大きく、全体では84億円の減収見込、営業利益は12億円の減益見込

(金額単位: 億円)



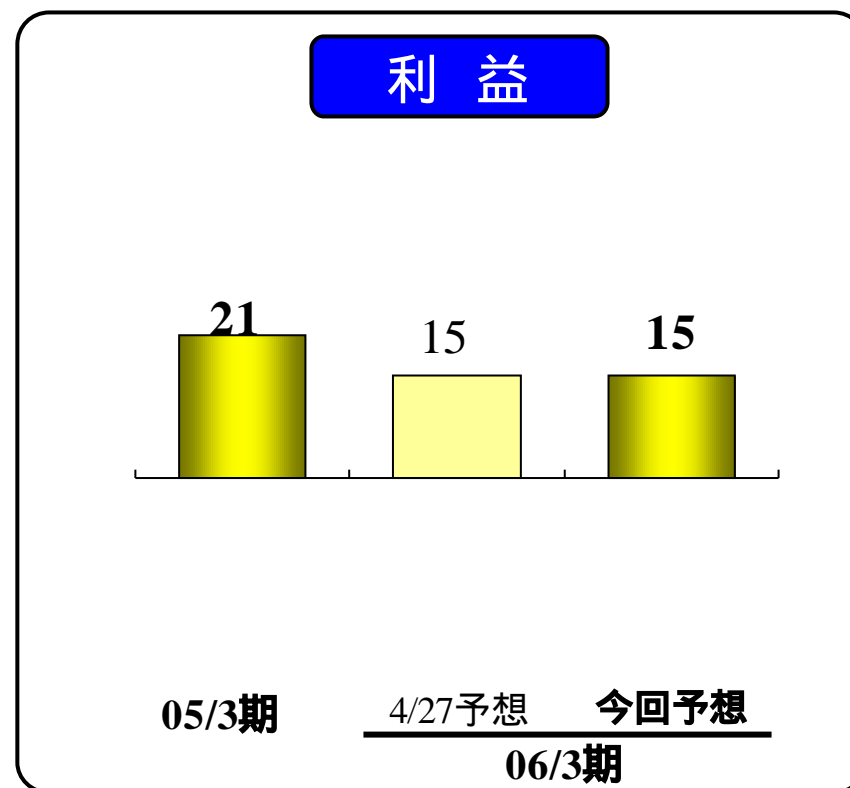
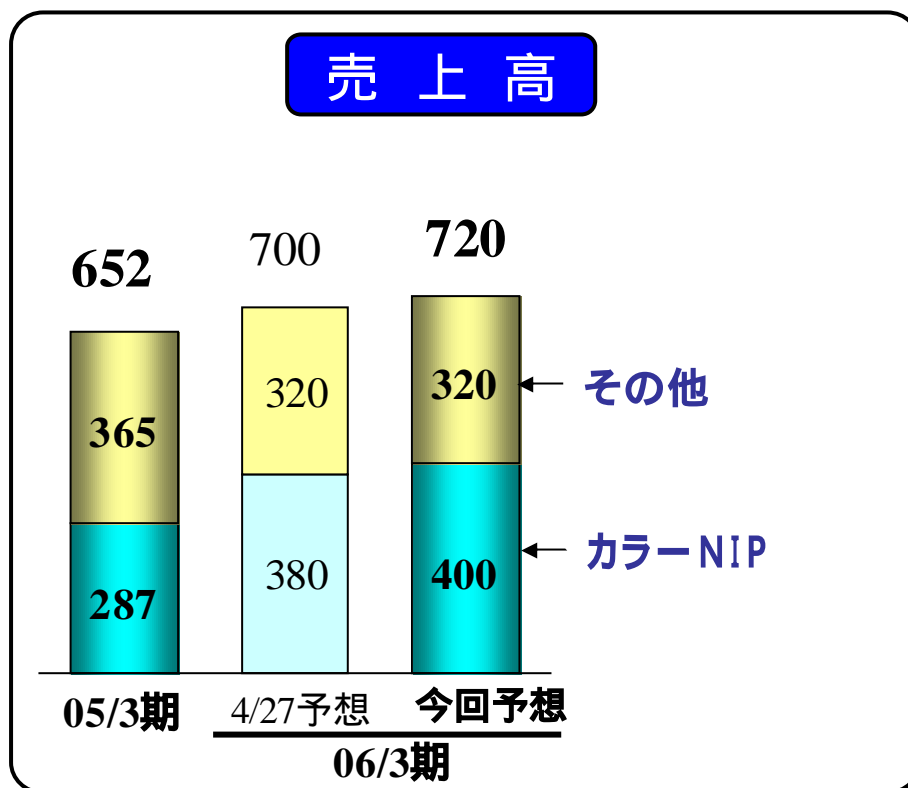
- 前回(4/27)予想に対し、売上高は770億円で据置き、営業利益は価格下落の影響で10億円の減益の見込
- 前年同期比では、ドライバLSI事業買収による増収効果はあるものの、昨年度後半以降の市況調整により売上高はほぼ横這い、営業利益は価格下落等により39億円の減益見込

(金額単位: 億円)



- 前回 (4/27) 予想に対し、売上高はカラーNIPが20億円の増収、営業利益は価格下落の影響で前回と同額の15億円の見込
- 前年同期比ではカラーNIPの出荷数量の伸びが大きく、68億円の増収となるが、価格下落と販売投資増により、営業利益は6億円の減益見込

(金額単位: 億円)



■ 収益力の源となる「強い商品」を創出

情報通信ビジネスグループ

- ▶ ATM - BankITをメガバンクを始め、地銀・信金等へ納入開始(10月)
- ▶ SS9100のラインナップを追加リリース(3Q)
- ▶ トリプルプレイサービス実現に向けた商品の投入(2Q)

半導体ビジネスグループ

- ▶ TFTドライバーの日本TIDドライバー事業買収による融合製品の市場投入(3Q)
- ▶ カスタムP2ROM事業の拡大とAdvancedP2ROMの市場投入(4Q)

プリンタビジネスグループ

- ▶ カラーLEDプリンタの新機種発売
 - ・欧米向けカラー複合機 (5月)
 - ・カラーマネジメント性能に優れた高速カラープリンタ(1ドット32階調を実現)(5月)
- ▶ より競争力の高いカラーLEDプリンタの開発(低コスト、高速、小型、高精細)